

「母性看護学領域統合実習における実践活動報告」

私は防衛医科大学校 医学教育部看護学科 母性看護学講座に所属しています。防衛省・自衛隊では、任務の多様化・国際化、医療技術の高度化・複雑化に十分に対応し得る資質の高い看護師を養成するため、平成26年度に防衛医科大学校に4年制の看護学科を新設しました。



今回は4年生の統合実習で母性看護学・健康教育コースを選択した学生の実習について紹介したいと思います。このコースでは、公立中学校2年生に性の健康教育を実施しており、今年度は「ライフプランから考えるジェンダーフリー」というタイトルで実施しました。授業は中学校生徒に大変好評で、人生の分岐点のひとつとなる中学生の時期に、自身のライフプランを考えることの重要性が感じられたようです。他にも、県および市の男女共同参画センターの実習では、DV被害者に対する適切な情報提供や支援を学習しました。さらに、生殖補助医療クリニックでは、体外受精の採卵・胚移植および培養室の見学実習を行い、あるクリニックでは、不妊治療を始めようとするカップル対象のクラスにも参加しました。見学中心の実習ではありますが、不妊治療の実践を学ぶだけでなく、今後女性やそのパートナーに対して、看護者としてどうあるべきか、また一人の女性として今後どうしていきたいかといったライフプランを考えるきっかけとなる重要な実習であると考えています。実習をした学生からも、「ライフプランをもっと真剣に考えなくてはいけないと実感しました」という感想も多く聞かれました。

今後も統合実習において、性と生殖の健康教育に基づいたライフプランニング教育について取り組み、中高生や大学生、また出産年齢にある社会人を対象に積極的に伝え、勤務助産師として活動して参ります。

第16回 いっしょにお産、たのしく育児

川越地区

11月4日(日)ウェスタ川越にて、川越市健康まつりの開催に合わせていっしょにお産、楽しく育児が開催されました。(主催：(社)埼玉県助産師会、共催：健康づくり支援課、後援：(公社)日本助産師会)会場では、骨盤底筋群エクササイズ、バランスボールエクササイズ、産後劇、又、助産師コーナー(埼玉県助産師会川越地区)が設けられ、助産師コーナーにおいては子育て相談、乳児の身長・体重測定、妊婦体験、子宮体験、リフレクソロジー、ハンドマッサージ、母子のための防災が開催されました。開始時間には、幅広い年齢層の方達が来場されていました。骨盤底筋群エクササイズでは、女性に混じり、男性も参加して身体を動かすことを楽しんでいました。バランスボールエクササイズでは、予約された方達(母・子)が楽しそうに行っている様子を立見で見学される等、賑わっていました。朝霞地区が担当した産後劇は、初めて育児をする際に、深く関わりのある夫や実母、姑、又、友人達の言動・行動が母親に与える影響をリアルに劇中に取り入れられていた為、これから出産をされる方、育児中の方とその関係者に訴えることができ、孫を持つ年齢層の方にも好評で用意した椅子が足りない状況でした。

子育て相談、乳児の身長・体重測定は両親で確認できるため、終了後、安堵の表情がみられました。妊婦体験では「寝ているのが一番辛い」等と感想を話され、又、子宮体験では父親と子供と一緒に体験したり、若い女性も体験する等、生命誕生の源に関心が寄せられていました。



広報委員 相澤敏子(越谷地区)

Advertisement for amethyst MATERNITY featuring baby products and the slogan '赤ちゃんの誕生を、いっぱい笑顔で。' (Celebrate the birth of your baby with many smiles.)

大衛株式会社 北関東営業所 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル3F TEL.03-5981-7180



安全対策委員会・助産所部会スペシャル企画研修会

10月7日、埼玉県総合医局機構・地域医療教育センターにて安全対策委員会・助産所部会スペシャル企画研修会が行われました。午前は葛飾赤十字産院産婦人科医第一産科部長の林瑞成先生による「臨床に役立つ胎児心拍モニタリング判読について」の講義が行われ、参加者は37名でした。実際のモニター所見を使い、その時の胎児の状況の読み解き方を学びました。また、モニターの落とし穴や判断に迷った時には記録に残すこと、重症な場合を想定して安全を第一に考え対応することなど、現場での状況を加味した、具体的で実践できる講義でした。分娩後、胎児・胎盤の状況と照らし合わせ、一例一例大切にすることという言葉や臍帯のワルトンゼリーの素晴らしさ等も興味深い内容でした。



午後は当会会長、田口眞弓氏によるスムーズなお産のための妊娠中からの身体的アプローチの講義で、参加者は32名でした。妊婦自身が自分の体に気づくことの大切さや母の生活習慣の改善が子供を始めとする家族や地域、公衆衛生の健康レベルもアップするという内容は印象的でした。骨盤を中心とした解剖学から始まり、実技では心拍数をアップするトレーニングもあり、身をもって体験し、今の自分の体の状況に気づく良い機会となりました。今後の指導に役立つ有意義な研修でした。 広報委員 栗原 弘子(所沢地区)

平成30年度スキルアップ研修会

11月25日、埼玉県地域医療教育センターにおいて勤務助産師部会・埼玉県母体・新生児搬送コーディネーター事業合同企画のスキルアップ研修会が開催されました。

前半は済生会川口総合病院・感染管理認定看護師であり助産師の柴田幸子さんに「感染リスクと対応」について講演していただきました。ハキハキとした柴田先生が時折参加者に質問され、ほどよい緊張感の中講義は進みました。病気をしたことの無い世代への健康教育の大切さや難しさ、血液を扱う助産師は意外にも感染に対して無頓着な面があること、日々の習慣が何より大切なことを実感しました。



後半は、埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センターの増子寛子先生による「母体救命と産科出血」の講演でした。母体救命・予後改善のポイント、それは「早期発見に尽きる！」ということ。そしてそのために一次施設に従事する私たち助産師が知っておくべき知識・対応を教えてくださいました。具体的には①妊娠中の出血(前置胎盤と常位胎盤早期剥離)②分娩・産褥期の出血③産科危機的出血についてです。わかりやすく工夫されたスライドに沿って講義は進み、時折3人の娘さんを育児中の増子先生のプライベートが垣間見られるスライドでブレイクタイムもありました。「搬送を受ける側の立場からオーバートリアージはOKです！」と有り難いお言葉をいただきました。一次施設でフローチャートに沿って早い段階での搬送の判断が必要だと身が引き締められました。

広報委員 梅原由里(春日部地区)

医療安全研修会 -分娩を取り扱う開業助産師のための医療事故調査制度ガイドラインの理解-

12月9日、埼玉県総合医局機構・地域医療教育センターにおいて、医療安全対策研修会が行われました。午前は当会会長の田口眞弓氏より、「医療事故調査制度ガイドラインの概要について」の講演でした。本ガイドラインは平成27年10月に施行された医療事故調査制度を適切に運用するために当会が作成したガイドラインです。まず、事故が起きてしまった場合、どのようなステップを踏んで対応していくか、1つ1つの流れを細かく講義して頂きました。また、どのような事故がこの制度の対象になりうるのか事例をもとに説明がありました。人が医療を扱う限り事故をゼロにはできないため、個人ではなく構造的な要因に着目した調査を行うことが求められ、本制度を理解し、医療安全の向上に務めていく必要性を学びました。



午後からは当会副会長の北田ひろ代氏による「質管理にみる医療安全の考え方-開業助産師業務の質管理を考える-」についての講義でした。事故をなくそうという発想ではなく、エラーが起きる要因を理解することや不測の事態にうまく対処するリカバリー力をつけること、危機発生前の準備やトレーニングをしていくことで組織を高めていく大切さを学びました。最後に参加者で「開業助産師が事業を継続していく上で、必要となる組織的な医療安全の取り組みについて」などをディスカッションしました。社会が求める安心安全のレベルが高まっている現在、組織の質の向上を学ぶ大変有意義な研修でした。

広報委員 大矢 身和(東松山地区)